

活動報告書

報告者氏名：和泉友紀子 所属：北海道岩見沢高等養護学校 記録日：2018年 2月 20日
キーワード：学習支援、学び方、スケジュール、読み書き支援

【対象児の情報】

○学年 高等部1年

○障害と困難の内容

- ・ 肢体不自由 脳原性運動機能障害（脳性麻痺、失調型）
…歩き方にぎこちなさが少しあり、座位にもふらつきがある
- ・ 自閉スペクトラム症
- ・ 学習障害
- ・ WISC-III IQ83（平成25年7月検査）

【活動目的】

(ア) 活動の当初の目的やねらい

- ①授業内容の理解の促進（書きの支援）
- ②スケジュール管理（優先順位を考えた行動）

URAWSS 評価		
書き課題（有意味文）	10.3字（1分間）	C
書き課題（無意味文）	11字（1分間）	C
読み課題	492字（1分間）	A
内容理解	6問中6問正解	

(イ) 実施期間 2017年5月～2月

(ウ) 実施者 和泉友紀子

(エ) 実施者と対象児の関係 HR担任

【活動内容と対象児の変化】

(ア) 対象児の事前の状況

<書くことについて>

- ・ 書字は手の巧緻性の課題や漢字の形の捉えに困難があり、1つの字を何度も見直して書き写す様子がある。
- ・ 脳性麻痺による視覚認知の課題もみられ、自分の名前を記入する際最後の一字を書き忘れることがある。
- ・ 想起にも困難があり、一部分足りないことや、偏と旁が逆になってしまうことがある。また、アルファベットが鏡文字になってしまうこともある。
- ・ 正しい漢字と間違えた漢字を見分けて正しい漢字を選ぶことはできるが、少し時間がかかる。

小学校、中学校時代は、ほぼマンツーマン指導で、本人のペースに合わせた指導が行われていた。スピードを意識した経験があまりない。書き間違いについては本人も気にしていて、漢字ドリル等を数多く取り組んできた経緯がある。理解力はあるものの、授業のペースに乗れないことや、学習時間確保に向けて、ノートテイクのスピードを上げて自信をつけて学習に向かってほしい。

<スケジュールについて>

- ・ 寄宿舍生活の中で、優先順位がつけられないことがある。
- ・ なかなか自分の意見を言えず、周りの言うとおりにしてしまう傾向があり、困ってしまうことがある。
- ・ 授業道具の忘れ物が毎日1つはあり、教科書やワーク等何が必要なのか教師の指示が入らないことがある。
(プリントをまとめること、ファイルやノート等)

<将来について>

- ・ 卒業後は就職を考えている。障害により座ってできる仕事に限定して考えていることもあり、事務職を希望している。そのため、パソコンスキルの定着と簿記検定の取得に向けて意欲を持っている。

(イ) その活動の具体的内容

○使用したアプリ

1. MetamojiNote
2. Word
3. DropTalk
4. ひよこ持ち物チェッカー
5. AC Flip Pro



○実践活動

<書くこと>

STEP 1 入力方法の選定

1. フリック入力

スマートフォンを使用していることから、フリック入力の練習をすすめた。しかし、今までフリック入力の経験はなく、タップして文字を選択する方法だったことや、指先を上下左右に動かすことに震えがあったり、失敗も多く定着しなかった。本人も前向きに取り組むことができなかった。

2. キーボードによる入力

授業で学習したローマ字入力を生かして、キーボードを利用した入力を勧めた。最初は授業のためにも頑張ると意欲も見られ、貸し出した Windows タブレットのワードを使って、家庭学習にも取り組むことができた。また、将来は事務系の就職を希望していることから意欲的に取り組むことができている。

その他に、試したことは、授業のスピードを意識して、音声入力を試したところ、滑舌の課題もあり入力された文章の訂正をすることで時間がかかってしまうため、本人の意向を確認した上でキーボード入力でのノートテイクを行うことにした。

STEP 2 授業への取り入れ

1. MetamojiNote の活用

WindowsPC のアプリ MetamojiNote を使って、「簿記」の学習を進めた。使用しているワークブックを PDF 化し、授業内で行われる学習はすべてタブレットで学習できる環境を整えた。また、同時に、宿題も寄宿舍や家庭で取り組めるようにタブレットに PDF データを用意した。



その日の時間割が表示され、持ち物にチェックマークを入れて確認できるようになっている。

STEP 3 方法を変えて Droptalk を活用

- ・ Droptalk を活用して時間割から持ち物を確認できるよう用意した。

○良かった

- ・ 時間割が教室掲示と同様の見た目になり、わかりやすく見通しを持つことができる。
- ・ 持ち物を揃えた時のチェックができる。
- ・ 他の項目も追加することができ、時間割のセットから次の行動へと連動させる事ができる。(時間割の最後に「洗濯」を追加した)



教室掲示、配布した時間割と同じ時間割を作成した。時間割をタップすると持ち物の詳細が現れる。

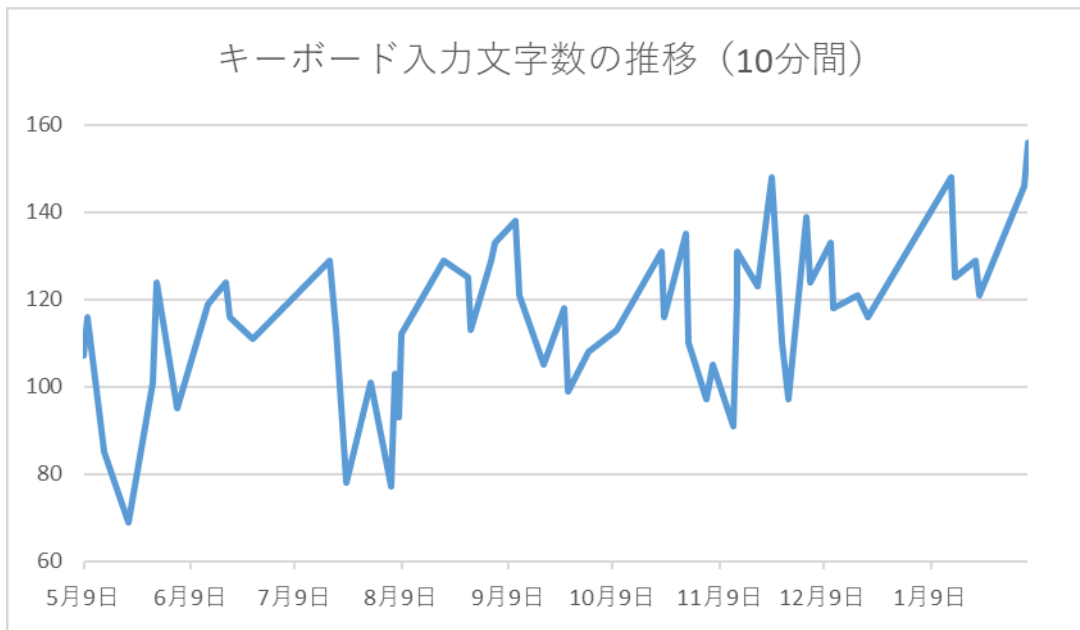


持ち物を確認しながらカバンに入れてチェックするとグレーになり、わかりやすい。

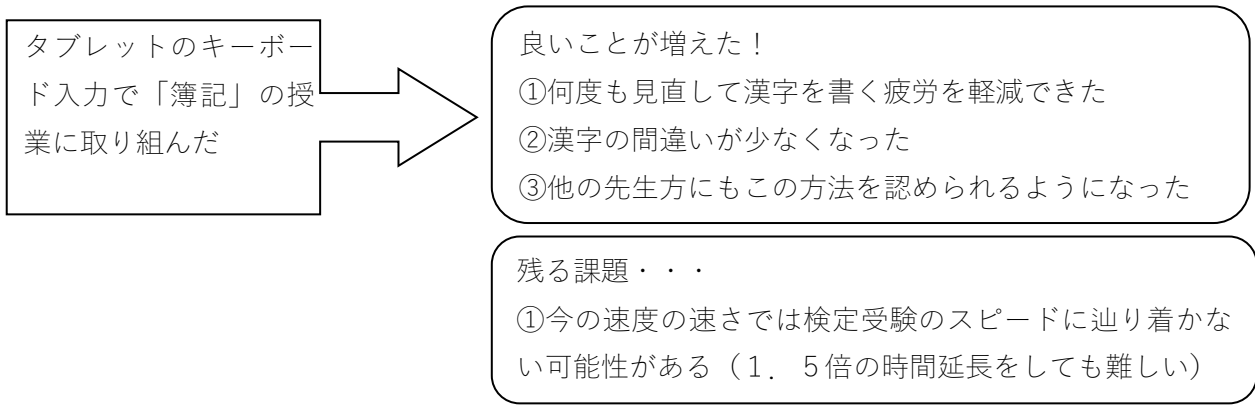
(ウ) 事後の変化

<書くこと>

今までの書字の疲労感を考えると、とても楽しく取り組むことができている。しかし、2つのパターンで入力方法を検討してきたが、現段階の入力スピードでは、授業のペースについていくことが困難である。他の授業では書字の負担を軽減する授業環境の配慮を受けて学習を進めている。



10分間の入力速度を計測し、最高156文字入力することができた。筆記と比較すると大きな差ではないが、本人にとって正しく書き写そうとするために何度も見直す負担を軽減することができた。入力が極端に少ない時は、漢字の読み仮名がわからず、何度か打ち直していることが多い。



キーボード入力の練習の継続、学習の理解を深めるために

今後も意欲的に継続できるように、AC Flip Pro を活用して、簿記の学習に関わる問題に取り組み (仕訳の問題など)、ワードに問題入力を通して「キーボード入力」のスピード向上と学習の理解を深めること目指した。また、入力速度の向上をねらうことで、パソコンに関わる他の検定受験も視野に入れて支援していく。





参考用に作成したものを真似て、続きの問題もワードで入力し、答えを入力することができた。PDF化したものを隠して、自分の学習にも役立てることができた。しかし、他の教科でも使って学習しようと次のステップまでに至らなかったため、今後も継続して支援していきたい。

仕訳の問題入力を自分で
行い、反復して学習
に取り組んだ

良いことが増えた！
①単純に文章を入力するよりも、活動に意味を感じられるようになり、満足感もあった。
②模擬試験問題に基づいた問題を繰り返し確認することで、間違いが減った。

<スケジュールについて>

時間割を揃えることを忘れてしまうという課題があり、複数の教科で忘れ物が頻発していたが、Droptalkの活用から、揃えられるようになった。当初は忘れてしまうことが多く、定着が難しかった。そのため、スマートウォッチの活用を試したが、アラームが鳴る前にはずしてしまうなど不向きだった。忘れっぽさから当初はアラームの活用を前提に行っていたが、アラームが鳴るのを待つのではなく、帰ったらすぐに行くというルールで定着することができた。

寄宿舍での生活面でも、ゲームを優先してしまい、洗濯などを後回しにしてしまう傾向があった。そこで、時間割に「洗濯」を取り入れ時間割の準備が終わったら、洗濯に取りかけられるように支援していくことで、少しずつ定着することができた。

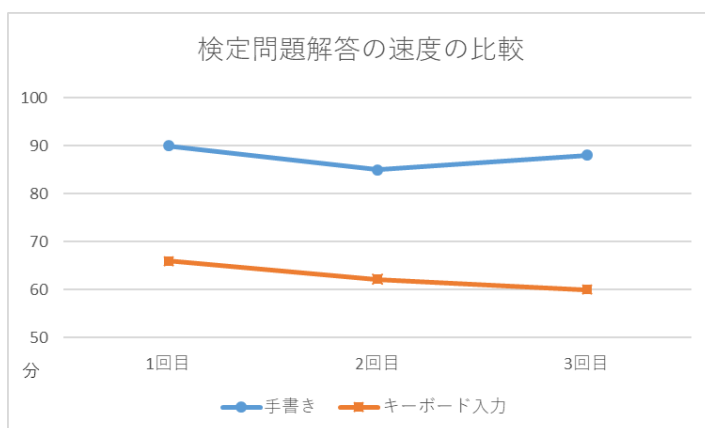
時間割を揃えるために
Droptalk を活用して、自
ら揃えられるようにな
った。

良いことが増えた！
①忘れ物がなくなり、先生に注意されなくなった。
②寄宿舍に帰ってきて、すぐ取り掛かれるようになり、先生から「まだやってないの？」と言われることが少なくなった。

【報告者の気づきとエビデンス】

<書くこと>

検定問題（簿記）の模擬試験を反復して学習する時のスピードについて、計測した。その結果90分の制限時間の検定試験で、手書きの場合見直しの時間が取れないことが多く、問題を解くだけで精一杯になってしまった。当初は、タブレット自体の準備に時間がかかってしまったり、操作に手間取ったりすることで、どちらが自分に向いているのか迷う気持ちもあったが、タブレットを活用したキーボード入力では、反復して問題を解いていくたびに、速度が速くなり、手書きよりもタブレットで受験したいという思いを強くすることができ、本人の自信にもつながった。また、速度向上は、入力速度の向上も見られるが、アプリの操作にも慣れたことが考えられる。



手書きとキーボード入力の速度を単純に比較しても20分以上の差がある。

また、漢字のミスが減るためキーボード入力の方が正答率も上がる。

今後に向けて

他教科では、ワークシート等の工夫や配慮により、書く負担を軽減してもらっている。簿記の学習で1年継続してきた結果、検定受験の際自分でタブレットを選ぶことができたので、他教科の授業でも手書きとタブレットを自ら選べる様にタブレットでのノートテイク方法を継続して支援していきたい。

<スケジュールについて>

時間割を揃えることから始めたスケジュール支援の結果、忘れ物が減り、自信をつけることができた。そのまましばらく継続していたが、半年ほど継続した頃からタブレットを使わずに自分で揃えたいと本人から話があり、今はタブレットを活用せずに、寄宿舎に戻り、時間割を揃えられるようになった。忘れ物が完全になくなったとはまだ言えないが、以前と比較すると大きく減少し、スケジュールを見なくても、時間割を揃えること、洗濯をすることを忘れずに取り組むことができている。

今後に向けて

時間割を揃えることについては効果が見られたが、他の場面でも課題が見えてきた。教師の声かけがないと宿題を提出できない、宿題自体を忘れてしまうこともあるので、今後はスケジュール支援の項目を変えて、寄宿舎での自習時間に取り組む、宿題など日常生活の項目を追加していき、卒業後の自立に向けて生活リズムを自分のものにできるよう支援していく。



時間割と洗濯に特化した内容のスケジュール支援を行った



時間割と洗濯の内容を簡略化し自分でできることを増やしつつ、支援を継続して忘れないようタイトルだけの支援を行う